

かかみがはらの埋文

各務原市埋蔵文化財調査センターだより 第6号



熊田山北古墳群1号墳出土ガラス小玉・勾玉
(3頁に解説)

ガラス小玉からの夢

熊田山北古墳群1号墳から、東海地方では類例のない1200個以上のガラス小玉が見つかりました。埋蔵文化財調査センターの地道な努力の成果だと思います。ところで、このガラス小玉は私たち市民にどんな夢を贈ってくれるのでしょうか。わたし達はどんな夢が見られるのでしょうか。

「古墳は小さくても、すばらしい装飾品を身につけて埋葬されていた」と考えると、その人物はこの地の権力者で、ガラス小玉は権威の証なのかもしれません。そして、他の古墳から馬具や武器が見つかることになれば益々面白くなります。村国氏や、後にこの地方へ渡来してきたと考えられる各務勝氏との関りかんりを示す遺物が出れば、古代日本社会の移り変わりを考える大切な史料ともなり、古代の歴史を各務原から全国に発信することも出来るのです。ガラス小玉は何と素敵な夢をわたし達に与えてくれたのでしょうか。

各務原市教育長 浅野 弘光



遺跡上空から東をのぞむ 左が津島神社

熊田山北古墳群は熊田山(野口山)の北すそに広がる古墳群で、かつてはこの地に、30基以上の古墳が集中していたといわれます。今回の発掘調査区域の北に位置する天王神社(津島神社)の境内にも3つの古墳が存在し、台風による巨木の倒壊で須恵器や鉄製の刀などの遺物が出土したことが知られています。

今回の発掘調査は、市道の新設工事にさきが行なったもので、調査区域内で4つの古墳が確認されました。このうち、最も残りの良かったものが1号墳です。



2本の濠がめぐる1号墳(南から)

ちいさな古墳から大きな成果

熊田山北古墳群

遺跡所在地：各務原市蘇原東島町2丁目188～191

開発主体者：各務原市都市計画部街路公園課

調査面積：2,970㎡

調査期間：平成9年6月20日～平成10年3月31日



1号墳からは、2つの埋葬の痕跡が確認されました。このうち1号主体からは、東海地方でも類例の少ない5世紀末の装飾付素環頭大刀や、1200点を超えるガラス小玉が出土しました。また2号主体からも、長さ約1mを測る鉄製の大刀や鉄製の矢じり、鉄鎌などとともに、須恵器や土師器といった焼きものが棺に供えられていました。



1号墳2号主体から出土した鉄製の矢じりや鎌、須恵器

棺に供えられた豪華な副葬品だけでなく、1号墳はその特異な構造も注目されます。古墳の周囲には周濠と呼ばれる濠が巡らされますが、1号墳では、この濠が2つあることが分かりました。これら2本の濠を仮に内濠・外濠と呼んでいます。

また、この2本の濠は同時期に存在していたのではなく、内濠を築いた後、これをわざと埋め、あらためて外側の濠をつくったことが分かっています。

埋め戻しにあたって、焼きものや紡錘車と呼ばれる糸紡ぎの道具と一緒に供えられていることから、埋め戻しにともなう地鎮祭のようなオマツリが行なわれていた可能性も考えられます。



内濠埋め戻し土中から出土した須恵器



外濠中から見つかった土師器

外濠の東半分からは、間隔をおいていくつかの土師器が据えられているのが見つかりました。なかには、ある程度外濠が埋まった段階で、あらためて濠の中に穴を掘り、土師器をまっすぐ据え置いているのが分かるものもありました。こうした土師器は古墳におけるオマツリの様子を伝える重要な資料であり、今後検討を加えることによって当時のオマツリを復元することが出来るかも知れません。

副葬品は語る

古墳には亡きがらとともに、生前身につけていたものや、権威の証となるものなど様々なものが埋葬されています。ここ熊田山北古墳群からも、非常に豪華な副葬品の数々が出土しました。その中でも、1号墳の1号主体から出土したガラス小玉、および大刀は特筆すべきものと言えます。

ガラス小玉は1200点以上にものぼり、この時期



1号墳1号主体出土首飾り想像復元



1号墳1号主体出土素環頭大刀柄部

の古墳としては東海地方でも類を見ません。一部は連なって原形を残したまま出土しており(口絵)、もともとどのような装飾品を形作っていたのかがある程度推測できます(左写真)。大刀は素環頭大刀と呼ばれる鉄刀で、全長は約75cmです。柄の部分(上写真)は銀で装飾されていると考えられ、装飾を施した素環頭大刀の中では東海地方で最も古いものと思われます。

このような豪華な副葬品から、この古墳にはかなり身分の高い人が埋葬されていたことが想像できます。特に素環頭大刀は日本で造られたものではなく、朝鮮半島から持ち込まれたものと推測され、中央政権との深いつながりが伺えます。

古代人になつたつもりで・・・

土器野焼き

親子体験教室 その1



平成9年7月26日(土)と8月2日(土)の両日にわたり、市内鶴沼三ッ池町に所在する炉畑遺跡公園を会場として、夏休み土器づくり教室を開催しました。参加者は、市内に在住される小学5年生から中学生までの親子10組22名の方々でした。

土器製作の7月26日は、あいにくの台風接近という荒れた天気の中、会場を炉畑遺跡に隣接する旧桜井家に移して行ないました。

みなさん思い思いに土器や土製装身具、埴輪形土人形などの作品を製作されました。参加者の中には今回が初めての体験という方も少なくなく、最初は粘土の扱いに慣れず苦労された方も、次第にすばらしい作品に仕上がり、とても喜んでいただけたようです。



その後、約一週間の乾燥期間をおいた8月2日、炉畑遺跡駐車場において野焼きを行ないました。当日は大変良く晴れて、絶好の野焼き日和となりました。参加者はそれぞれ自分の手で作った作品が野焼きの炎の中で色を変え、次第に焼き上がっていく様子にとっても感激されたようです。また、作品が焼き上がるまでの時間を利用して、勾玉や竹トンボ・独楽などの製作体験も行ないました。

参加したみなさんの、今年の夏休みの楽しい思い出のひとつに加えていただけたのではと思っています。

作品展示



平成9年8月12日(火)から8月17日(日)まで、各務原市中央図書館3階展示ホールにて、今回の夏休み土器づくり教室で参加者が製作した作品の展示会を開催しました。

期間中、多くの市民のみなさんが来場されました。見学に来られた方々には、手作りの作品が持つ“ゆとり”や“ぬくもり”とともに、親子での土器づくりや素朴な野焼きの楽しさにも触れていただきました。

縄文の味ってどんな味？

縄文クッキーをつくろう

親子体験教室 その2

平成9年9月21日(日)、炉畑遺跡公園において親子14名の参加者を得て行ないました。

当日は朝から大変天気も良く少々暑いほどでしたが、参加者一同元気良く、まずは公園内において材料となるドングリを拾い集めました。公園にはクヌギ・ミズナラ・アカガシなどが植えられており、藪蚊の攻撃に遭いながらも沢山のドングリが拾えました。

採集したドングリは、縄文人が行なったように石で殻を割り、アク抜きを行ないました。自然の石を道具として使いこなすことは想像以上に難しいことで、ある程度の練習を経て、コツと要領を飲み込まないとできないことが体験によってわかりました。また、ドングリのアクは煮詰めると濃いチョコレート色となり、みなさんそのすごさに驚いていました。

午後に入って日差しも一層強くなり、蒸し暑さも増したために参加者一同ややバテ気味となってしまいましたが、それでも子供たちは大変元気良く、焚火の周りやテントの中でクッキーの焼ける



様子や味見に余念がないようでした。そこには、最近の子供たちは一と、よく耳にする社会の評判とは違う、ごく普通の子供の姿がありました。

焼き上がったクッキーは参加者全員で試食し、意外においしい(蜂蜜のおかげ?)と好評でした。

現代の私たちの生活は、そのほとんどが物の売り買いによって成り立っていますが、今回、縄文時代の食文化のほんの一端に触れていただいて、自分が食べるものを自分で作り出すことの大変さ、あるいは素晴らしさというものを実感していただけたのではないのでしょうか。

縄文クッキーをつくってみよう

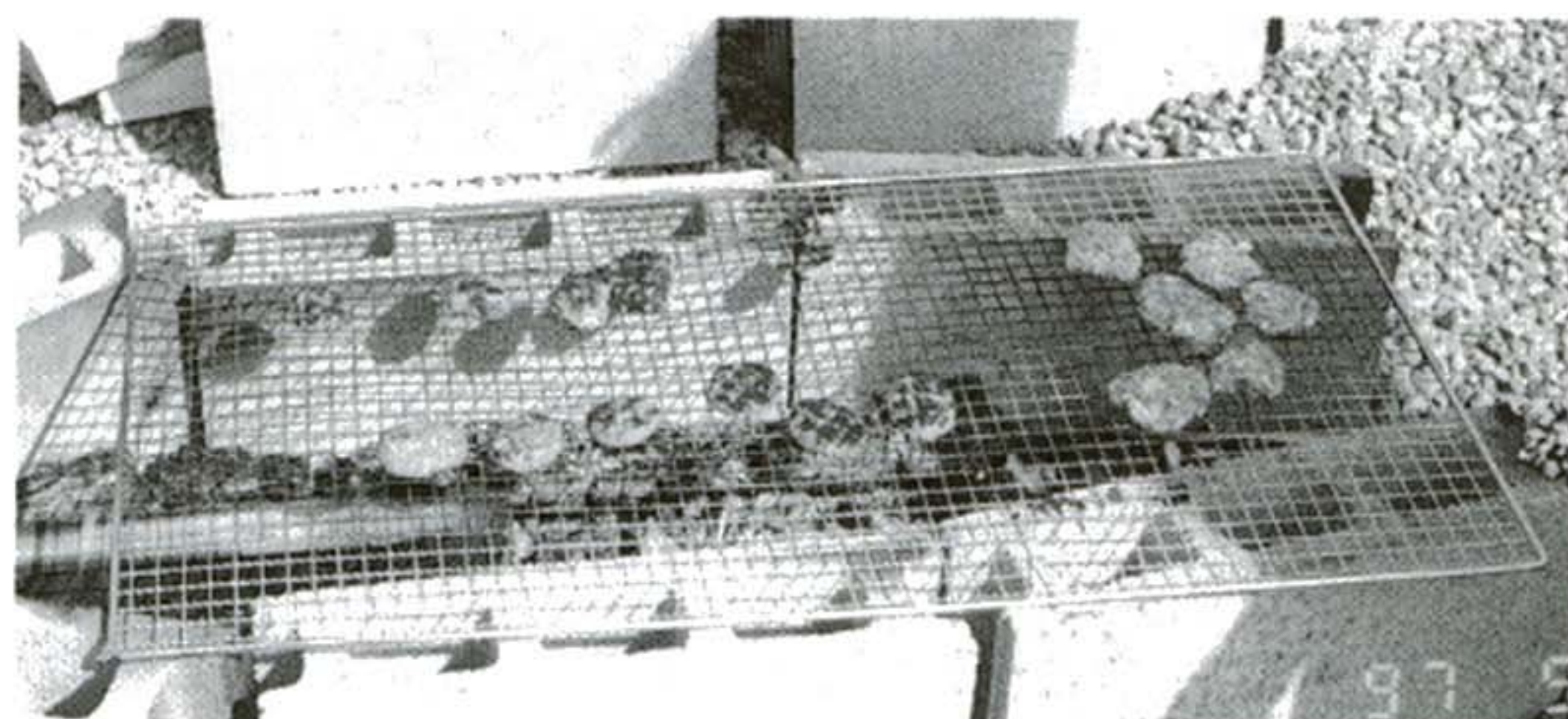
まず材料を揃えることから始めましょう。実りの秋、公園や森、林に行つて地面に落ちているドングリを拾ってきましょう。また、河原に行つて人頭大の平たい石と、拳大の丸い石を拾ってきましょう。ドングリ以外にも、縄文時代にも食材として使われたのではと思われるクルミや栗、椎茸、ごまなども準備しておきます。

さて、いよいよ料理です。2個の河原石をきれいに洗い、平たい石の上に置いたドングリの殻を丸い石でたたいて割ります。ドングリはアクが強いので、葦などの灰汁で煮詰めてアクを抜きます。

次に再び河原石にのせてドングリを潰します。栗や椎茸なども同様に潰し、好みによりそれらを

混ぜ合わせます。ここで、縄文人にはちょっと目をつむってもらい、ほんの少し、鶏の卵や蜂蜜を混ぜると、私たちでも食べやすい味になります。

ここまでくればもう簡単。ハンバーグのように形作り、炭火でアミの上で焼くだけです。香ばしくもほろ苦い、どこかほんのりと甘さが漂う縄文クッキーの出来上がりです。一度お試し下さい。



お墓の主に思いをはせて

熊田山北古墳群

発掘調査現地説明会



熊田山北古墳群は、豪華な副葬品と特異な構造によって、新聞報道で大きく取り上げられました。11月8日に行なった現地説明会では、遠く県外から訪れる方もあり、600名の参加者を数える一大

イベントとなりました。

当日は調査員による遺跡の解説に加え、調査区から出土した遺物をできる限り展示しました。なかでもみなさんの関心は、やはり大刀およびガラス小玉・勾玉に集中していたようです。「本当に1000年以上も前につくられたものなんですか？」と、信じられないといった口ぶりで何度も質問を受けました。約1500年の時を経て掘り出された遺物の数々を、ただ話に聞くだけではなく直接目にし、より一層の驚きや感動を味わえたことと思います。「すごいね」と遺物に見入るみなさんの笑顔がとても印象的でした。

現地説明会は、興味深い遺物の数々を展示ケースのガラス越しではなく、調査員の詳しい説明を聞きながら直に目にすることのできるまたとない機会です。今後も開催日時は、市広報や新聞などを通じてお知らせしていきますので、ぜひ一度、足を運んで下さい。

熊田山北古墳群出土遺物の速報展



熊田山北古墳群の発掘調査は現在も継続中ですが、当センターでは出土した遺物の数々を展示室で公開しています。ただし、素環頭大刀などの鉄製品は、錆による腐食を防ぐ保存処理に出す必要があるため、実物ではなく写真による展示のみとなっています。

現地説明会用パンフレットの配付や、現地説明会の模様を録画したビデオの上映も行なっています。お気軽におこし下さい。

出土遺物科学処理

昨年度に調査を行なった鶴沼の承国寺遺跡からは、釘をはじめとするたくさんの鉄製品が出土しました。それらの錆びを落とし、何に使われたのかを明らかにすることは、中世から戦国時代の鶴沼の様子を考える上で大事なことであり、また資料として後世に残していく必要があります。本年度は200点以上科学処理を行ない、そのうち金の装飾を施されたと思われる鉄環が一点確認されました。

遺跡詳細分布調査

各務原市教育委員会では、平成5年度より5ヶ年の計画で、文化庁と岐阜県の補助を受けて市内の遺跡詳細分布調査を実施してきました。各務原市は、都市として飛躍的な発展をとげた反面、今日までに多くの埋蔵文化財が破壊されてきました。住みやすい都市環境開発が求められるなか、埋蔵文化財を取り巻く状況は、今後ますます厳しいものとなることが予想されます。遺跡詳細分布調査は、現在における市内の埋蔵文化財をより正確に把握し、今後の文化財保護行政に活用することを目的とした事業です。

平成9年度は最後のまとめの年として、遺跡詳細分布調査報告書、及び各務原市遺跡地図の刊行を行ないました。報告書では、各務原市内の196遺跡を個別に写真、あるいは採集した遺物実測図入りで紹介し、過去の調査成果や参考文献なども

同時に掲載しました。遺跡地図は、遺跡の範囲を1/5,000都市計画図上に赤で示したほか、古墳、古窯跡を個別に点で表現しました。市内遺跡に関する、より細かな分布図が完成したことで、今後の開発等との調整にどのように活用するのか、その基準を明確にしていきます。各務原市の埋文行政は、新たな一步を踏み出すこととなります。



遺跡詳細分布調査表採遺物

新刊報告書の案内

村雨町遺跡A地区 奈良時代の住居址が1軒見つかつた遺跡です。住居の床面に焼土（火を受けた土）が詰まった穴が確認されました。鉄製品の破片や鉄滓（鉄を精製するとき出来るクズ鉄）も少し見つかつていることから、鍛冶のような火を伴う作業場であった可能性が考えられます。

須衛天狗谷窯址群・天狗谷古墳群 7世紀後半から12世紀後葉にかけての、須恵器、灰釉陶器、山茶碗の窯址14基および灰原、小規模な円墳2基などが見つかりました。古代美濃須衛窯から中世美濃須衛窯にいたる、陶器生産の実態を把握するための基本資料を提供した重要な遺跡です。

寄贈・寄託資料の紹介

(伝)柄山古窯出土文字瓦

この資料は、尾崎南町にお住まいの方から寄贈していただいた貴重な資料です。この瓦に見られる「厚見□瓦」という文字は、岐阜市にあったとされる厚見寺に供給された瓦であることを示していると思われまふ。那加柄山の斜面に営まれた瓦窯跡では写真と同じ文字瓦がいくつか拾われており、7世紀終わり頃の瓦生産地と消費地の関係をよく示す資料として注目されています。



日誌抄 (1998.1 現在)

◆見学・来訪

- 5/31 那加地区セミナー「ふるさと探訪」(17名)
- 6/6 動く市民教室 自治会連合会役員(13名)
- 6/10 美濃市教育委員会(36名)
- 7/30 東海北陸公共図書館協議会(15名)
- 8/1 動く市民教室 夏休み親子(30名)
- 8/22 動く市民教室 鶴沼第2小学校6年生(30名)
- 9/12 動く市民教室 蘇原保育所家庭教育学級(16名)
- 10/8 古代史同好会(13名)
- 10/14 動く市民教室 あさひ幼稚園家庭教育学級(30名)
- 10/17 川辺東小学校6年生(25名)
- 10/22 動く市民教室(25名)
- 11/9 図書館体験講座(20名)
- 11/12 動く市民教室(30名)
- 11/29 八幡町教頭会(11名)

◆資料等実見・貸出

- 4/1 愛知県陶磁資料館 美濃須衛古窯跡群出土遺物(149点)
平成7年度から継続 平成10年3月31日まで貸出
常設展「猿投・瀬戸 全国古窯陶磁資料展」に展示
- 5/4 専修大学大学院学生(牛丸岳彦氏)須恵器実見
- 5/11 (財)岐阜市教育文化振興事業団(井川祥子氏)
古市場遺跡A地区出土遺物実見
- 5/29 (財)岐阜市教育文化振興事業団(内堀信雄氏ほか2名)
上田遺跡出土遺物実見
- 6/8 (財)岐阜県文化財保護センター(小野木氏)
三井遺跡出土かわらけ実見
- 6/15 (財)岐阜市教育文化振興事業団(井川祥子氏)
承国寺遺跡出土遺物実見

- 6/20 新人物往来社「中世都市研究4号 都市と宗教」
承国寺遺跡全景等写真(4点)
- 6/27 岐阜市歴史博物館(横田氏・稲川氏)
承国寺遺跡・野口庵寺・村雨町遺跡出土遺物撮影(106点)
- 7/16 豊田市博物館(森氏)遺物実見
- 9/9 岐阜市歴史博物館(横田氏・稲川氏)
承国寺遺跡・野口遺跡・村雨町遺跡出土遺物貸出(106点)
(~平成9年10月30日まで展示)
- 9/17 大阪府教育委員会(山上氏)来訪
- 10/2 大阪大学文学部学生(忽那氏)遺物実見
- 10/31 大垣市教育委員会(2名)熊田山北古墳群現場視察
- 11/1 大垣市教育委員会(2名)・岐阜県博物館(坂口氏)
・(財)岐阜県文化財保護センター(沢村氏)現場視察
- 11/4 南山大学教授(伊藤秋男氏)熊田山北古墳群出土直刀実見
- 11/6 南山大学大学院学生(中島氏)三角縁神獣鏡実見
- 11/7 京都大学(高橋氏ほか)熊田山北古墳群現場視察
- 12/3 京都大学(高橋氏ほか)熊田山北古墳群出土遺物実見

◆職員派遣・指導鑑定等

- 5/7 西生涯学習センター 成人講座講師(センター職員)
(5/7,14,21, 6/4,11,18,25, 7/2,9,16の10回)
- 7/1~24 奈文研一般研修一般課程受講(田中)
- 8/22 美濃加茂市教育委員会
牧野小山遺跡出土須恵器鑑定(渡辺)
- 10/4 美濃源氏フォーラム 講師(大熊)
- 1/10 (財)愛知県埋蔵文化財センター
門間沼遺跡出土土器鑑定(渡辺)
- 1/13 糸貫町教育委員会 船来山古墳群出土遺物鑑定(渡辺)
- 1/16 (財)愛知県埋蔵文化財センター
美濃須衛古窯跡群および出土遺物の概観(渡辺)

編集後記 熊田山の現地説明会に600人が訪れ、空前の賑わい。黒塚(邪馬台国云々…)の比ではないにしろ、古代史ブームの一端か。都(ブーム)が移っても、人の営み(発掘への情熱)は絶えることはなさそう。発掘の『実』を期待したい。(A)

〈埋蔵文化財調査センターのご案内〉

- 開館時間：午前10:00～午後5:00
- 休館日：毎週月曜日・祝日・年末年始および
市教育委員会の定める日
(祝日が月曜日の場合は火曜日も休館)
- 交通：名鉄各務原線市民公園前駅下車徒歩一分
- 入館料：無料
- 駐車場：右図参照(JRと名鉄の間)

各務原市埋蔵文化財調査センターだより 第6号
〈平成10年3月〉

編集発行 各務原市埋蔵文化財調査センター
〒504-0911 岐阜県各務原市那加門前町3-1-3
TEL 0583(83)1123 FAX 0583(71)1145

